

関係各位

(一般社団法人) 医薬品セキュリティ研究会
第7回フォーラム「協賛」についてのお祝い及び会員募集

謹啓 貴社におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

平成 29 年 1 月に、薬局や病院さらには患者に偽造医薬品が流れていた事件が発覚し、偽造医薬品に対する日本の認識が大きく変わりました。厚生労働省の主導により、迅速に偽造医薬品対策が強化されました。最早、偽造医薬品問題は個人輸入による当事者の健康問題だけではなく、実は、いつの間にか、私たちの生活に忍び混んでいるかもしれない、特に 医療に関わる専門家の懸念は一方ならぬいものです。

今、偽造医薬品はグローバルな健康問題になっており、発展途上国はもとより、欧米諸国でも毎年発見され、健康被害や死者がでております。偽造医薬品の対象も生活習慣に関連する医薬品から、抗がん剤あるいはバイオ医薬品など患者の生命に直結する治療用医薬品に拡がりつつあり、偽造された抗がん剤が他の国で流通していた事例も報告されています。偽造医薬品対策は、偽造医薬品及び防止技術の情報収集・対策実施などの社内体制の整備、知的財産を守るための税関による水際での摘発、オンラインでの偽造医薬品販売の摘発も含めた国内外の警察・司法・行政組織との連携、製薬業界団体を介した世界レベルでの偽造医薬品情報の収集と調査など、多面的な取り組みを必要としています。

平成 25 年 3 月に開催されました日本薬学会のシンポジウムにおいて、偽造医薬品の世界における現状、規制・取締、製薬企業、偽造品対策技術を有する企業からの発表が日本で初めて一堂に会しました。このシンポジウムの成功を受け、継続的な取り組みとして日本に定着させ、製薬企業、偽造対策技術を有する企業、大学、公的セクター等がオープンに情報を交換し、議論を闘わせ、開発・利用を促進するとともに世界の偽造医薬品への取り組みとも連携できることを目指すことを目的として、本シンポジウムのオーガナイザーを中心として医薬品セキュリティ研究会を立ち上げることとなり、平成 25 年 9 月 2 日付けで一般社団法人としてスタートしました。

その後、第 1 回フォーラムは「偽造医薬品と闘う技術の最前線」、第 2 回は「偽造医薬品と闘う技術の最前線 2 真贋判定技術に求められる要件とは」と題して、製薬企業での偽造医薬品への取り組み、偽造防止技術を持つ企業の技術、鑑別方法などについて紹介しました。第 3 回及び 4 回フォーラムでは「医薬品の流通セキュリティの課題と今後」、「グローバル流通する偽造医薬品との闘い」と題して偽造医薬品の流通に焦点を当て、税関における世界の偽造品対策、外国での流通事情、製薬企業の取り組みやその体制、諸外国の偽造医薬品対策などを紹介し、「オンライン薬局の実態と消費者意識」として特別セミナーを開催しました。第 5 回フォーラムでは 2017 年にハーボニー配合錠の偽造品流通事案を受け、「安全神話の崩壊」と題して厚生労働省による偽造医薬品流通防止のための規制、卸売販売業から流通業における実状と規制、企業からは偽造防止技術と認識技術などを紹介し、昨年の第 6 回では、「止められるか、偽造医薬品と不正流通」と題して偽造医薬品による犯罪に対する国際的取締りの現状、製薬企業の取組、世界の偽造医薬品対策に関する国際会議参加報告、偽造薬に対抗する認証技術、固体識別技術、印刷技術などを紹介しました。

今回は、「世界の医薬品セキュリティの動向」と題してWHOの偽造医薬品担当者による世界における偽造医薬品の現状とその対応、偽造医薬費の被害を受けた企業が講じた具体的対応、偽造防止及び識別技術など最新の情報を講師の方々にご紹介いただく第7回フォーラムを8月30日に開催いたします。

本フォーラムを実り多いものにするために、皆様の積極的なご参加及び、民間各社、各団体におかれましては、何卒第7回フォーラムに対してご協賛を賜りますようお願い申し上げます。

更に、本研究会の活動を継続的なものにするために、医薬品セキュリティ研究会の会員募集を引き続き行い、会員間の情報共有、偽造医薬品対策のレベルアップを目指して行きたいと考えておりますので、ご検討いただけますようよろしくお願いいたします。

謹白

令和元年6月吉日

(一般社団法人) 医薬品セキュリティ研究会

理事長 木村 和子

(金沢大学名誉教授、特任教授)